

最近の消費動向（月別概況・個別ヒアリング）

個人消費は増加している。30年4～6月期の百貨店・スーパーの合計売上高は、全ての月で対前年を上回った。百貨店は、外国人旅行者と国内富裕層への売上が好調に推移しており、化粧品や高額商品（宝飾・時計）などを中心に売上を伸ばした。一方スーパーは、野菜の相場安や低気温・多雨などの影響から季節商材で苦戦した。

コンビニ販売額は増加傾向にあり、家電販売額は6月に2ヶ月ぶりに増加した。新車販売台数は2ヶ月連続で減少している。

月別概況

4月：（平年差）平均気温+1.8℃、降水量+34.9%

4月は、外国人旅行者が多く、インバウンド需要が好調であった。清明節やタイ正月が前年は4連休であったが今年は5連休であったことのほか、桜人気による訪日需要の高まりなどが影響している。

百貨店では、気温の上昇に伴い、季節需要の春夏商材が活発に動いたほか、引き続きインバウンドと高額消費が高い伸びをした結果、売上高は前年を上回った。さらに、関西地域計では、外国人旅行者への売上高、売上件数はともに過去最高を更新した（日本銀行大阪支店）。

スーパーでは、月前半の低気温により衣料品・住居関連商品の季節品全般が苦戦し、売上高は、前年を下回った。

5月：（平年差）平均気温+0.4℃、降水量+58.4%

5月は、前年に比べ土曜日が1日少ないことによる入店客数への影響に加え、気温の低い日が続いたことや雨の日が多かったことから、初夏アイテムの動きが鈍化した。

百貨店では、初夏アイテムの動きが鈍化したものの、化粧品が変わらず好調であり、また、時計等の高額商品が牽引し、売上高は前年を上回った。

スーパーでは、前年のアニサキス報道による需要減の反動で水産は回復したものの、野菜相場の下落で苦戦し、売上高は前年を下回った。

6月：（平年差）平均気温-0.1℃、降水量+4.1%

6月は、土曜日が1日多く売上に押し上げ効果をもたらすも、18日に大阪北部を震源とする地震が起こったことにより、営業時間の短縮や、その後の余震の影響で1週間程度客数が減少するなど売上にマイナスの影響を与えた。

百貨店では、インバウンド需要が好調であり、時計などの高額商品や化粧品も依然好調で、父の日需要で酒なども売上を伸ばし、売上高は前年を上回った。

スーパーでは、食料品で缶詰やレトルト食品など一部震災の特需があったものの野菜の相場安で苦戦した。衣料品・住居関連商品は、地震の影響で中旬大きく失速するも、月末の気温上昇で少し回復の兆しを見せた。売上高は前年を上回った。

百貨店 A 社

6月は、18日の地震により消費マインドの低下を受け、また、前年よりも雨天の日が多く夏物商材が苦戦した。しかし、化粧品やラグジュアリーブランドは引き続き好調に推移し、売上高は前年を上回った。

紳士服：クールビズの浸透の影響などにより、スーツやワイシャツ類は販売の低調が続いているが、秋物のブルゾンが特定のブランドで人気高く、前年を大幅に上回った。また、カジュアルパンツ、Tシャツ・カットソー、カジュアルシャツ、靴なども好調に推移し、売上高は前年を上回った。

婦人服：スーツやジャケットで苦戦をしたものの、ダウンコートの販売が始まり人気が出て、前年を大きく上回った。また、1枚で着ることのできるワンピース、サマードレスや冷房対策のセーター類が好調で、売上高は前年並みとなった。

子供服：インバウンド需要が好調でインターナショナルブランドが伸長し、売上高は前年を上回った。また、ランドセルの売上も堅調に推移している。

宝飾・時計：宝飾・時計は堅調に推移しており売上は前年を上回った。消費は、インバウンドと国内富裕層両方が活況であった。

服飾雑貨：シーズン雑貨である日傘や帽子、ネックウェアは前年を下回ったものの、ハンドバックと化粧品が牽引する形で売上は前年を上回った。化粧品は、国内客の客数は横ばいであるもののインバウンドの客数は依然として伸びている。

食料品：父の日の影響で酒の売れ行きがよかったものの洋菓子や和菓子が前年を下回った。食料品は客数の影響を受けやすく、地震の影響で客数が減少したことが売上にダイレクトに響いたと考えられ、売上は前年を少し下回った。

百貨店 B 社

6月は、18日の地震により消費マインドの低下を受けたにもかかわらず、夏のクリアランスセール的好調もあり、売上は前年同月比を上回った。お中元につい

ては、インターネットでの予約が増え前年を上回る結果となった。

紳士服：ワイシャツ・パンツ・ネクタイ・革小物・Tシャツなど全般的に動きがよかったが、特にスーツやジャケットの伸びがよく、インポートブランドや高額商品が牽引する形で売上は前年を上回った。

婦人服：流行のスカートと、冷房対策需要のカーディガンや季節商材であるサンダルが好調で、売上は前年を上回った。

子供服：インバウンド需要が高く、ブランド物の靴や哺乳瓶などが好調で、売上は前年を大幅に上回った。また、近年前倒しになっているランドセルの展開はゴールデンウィークとお盆にピークがくるように販促がされているが、6月も好調に推移している。

宝飾・時計：時計が前年を大幅に上回り牽引する形でカテゴリー計は前年を上回った。時計は、インバウンドだけに限らず国内富裕層にも人気であり、特に限定モデルに人気が集まる傾向がある。ジュエリーでは、季節柄もありブライダルリングが好調であった。

化粧品：インバウンド需要が高く、売上は前年を大幅に上回った。基礎化粧品・メイキャップ・ファンデーション・スキンケアなど全てのカテゴリーで前年を上回っている。

シーズン雑貨：雨の日が多かったため、帽子やサングラスは前年を下回ったものの、雨傘やレインシューズが好調でありカテゴリー計は前年同月を上回った。

食料品：野菜・肉・魚といった生鮮食品や惣菜が牽引する形で売上は前年同月を上回った。また、父の日の需要で日本酒や、気温の上昇に伴いゼリー・アイスクリームなどの洋菓子も好調であった。

6月は、客単価や買上点数は、前年を上回ったものの、18日の地震により一部店舗の営業日数が減少したこともあり、全体的に客数が減少し、売上は前年を下回る結果となった。

衣料品：前半は気温の上昇に伴い、肌着や日傘が伸長したものの、父の日需要のギフト商品は年々売上減少が続いている。後半は、地震の影響で入店客数に影響を及ぼし失速するも、降水量の増加に伴い、雨傘などのレイングッズが好調であった。また、最終週はクリアランスセール的好調があり回復した。

食料品：野菜相場が下落した農産や、買上点数が減少した日配は苦戦が続くものの、前年のアニサキス報道による需要減の反動もあり水産は堅調であった。特に父の日需要でまぐろや乾燥珍味が好調に推移した。また、焼肉を中心とした牛肉が好調であり、地震による影響で加工食品である飲料・缶詰・インスタント食品やベビーフードなどが伸長した。惣菜では販促効果もあり売場が活況であった。

住居関連：軽寝具が伸長するも、天候不順もあり季節商品は不振であった。また、震災需要でラップ・ホイール(皿の上に被せて使用。皿を洗う必要が無くなる。)や、ガスボンベ・電池・懐中電灯などが伸長した。

(山田 麻由)

大阪府の消費に関する経済指標

※ Pは速報値を表す

(単位：百万円、台、%)

| | | 30年 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|------------|----------------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|----|
| 大型小売店計 | 販売額(全店ベース) | 157,145 | 135,547 | 154,244 | 145,960 | 145,038 P | 148,167 | |
| | (前年同月比、全店ベース) | 2.0 | 0.6 | 4.0 | 2.9 | 0.1 | P 2.5 | |
| | (前年同月比、既存店ベース) | 4.1 | 3.1 | 4.8 | 3.5 | 0.9 | P 3.3 | |
| うち百貨店 | 販売額 | 82,726 | 69,225 | 83,299 | 76,011 | 74,686 P | 75,077 | |
| | (前年同月比、全店ベース) | 2.6 | 0.4 | 7.1 | 8.2 | 3.0 | P 4.8 | |
| | (前年同月比、既存店ベース) | 6.3 | 4.8 | 8.1 | 9.1 | 4.5 | P 6.1 | |
| うちスーパー | 販売額 | 74,419 | 66,322 | 70,945 | 69,949 | 70,352 P | 71,090 | |
| | (前年同月比、全店ベース) | 1.3 | 0.8 | 0.5 | ▲2.3 | ▲2.8 | P 0.3 | |
| | (前年同月比、既存店ベース) | 1.8 | 1.3 | 1.1 | ▲2.0 | ▲2.7 | P 0.5 | |
| コンビニエンスストア | 販売額(全店ベース) | 63,084 | 58,919 | 68,008 | 66,331 | 67,424 | 69,054 | |
| | 販売額及び店舗増減 | 3.5 | 2.8 | 4.2 | 3.8 | 1.6 | 5.1 | |
| | 店舗数(前年同月比) | 1.8 | 0.5 | 1.0 | 1.1 | 0.9 | 0.6 | |
| 乗用車新車販売 | 台数 | 17,948 | 21,213 | 26,955 | 16,055 | 16,433 | 18,820 | |
| | (前年同月比) | ▲1.5 | ▲3.6 | ▲4.8 | 2.9 | ▲0.5 | ▲7.8 | |
| 家電大型専門店販売 | (前年同月比) | 5.7 | 5.5 | ▲0.5 | 1.5 | ▲1.4 | 8.2 | |

資料：【大型小売店販売額】近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」。

【コンビニエンスストア販売額】経済産業省「商業動態統計」。

【乗用車新車販売台数】財団法人自動車販売協会連合会、財団法人軽自動車協会連合会。

【家電販売額】経済産業省「商業動態統計」。